



センター長に就任して

岡田 直之¹

情報科学センターは、発足して今年で丁度、十周年を迎える。その間センター職員の努力はもちろんのこと関連する委員会の先生方、事務当局のご協力により、情報処理の基礎教育や専門教育を基底にした情報科学の教育研究に関し、ユニークで質の高い共同利用施設に成長した。その足跡や成果は別の稿に譲るとして、現在センターならびにその周辺で取り組んでいる事柄を述べよう。

一部重複するが、次の4つは大きな課題である。

1. マルメディア・コミュニケーション・キャンパス (MCC) 構想の推進
2. ネットワーク対外接続の改善
3. スペース・コラボレーション・システム (SCS) 事業の推進
4. 情報処理教育研究集会の開催

1. の MCC 構想は、前柏木センター長時代に将来計画委員会での熱心な討議を経て企画されたもので、今後のセンターの方向性を示す構想である。すなわち

(1) マルチメディアの強化

(2) ネットワークの強化

を柱にして、情報処理の基礎 / 専門教育等の改善、向上を図るとともに、非情報系の講義科目の支援にも踏み込もうとするものである。

2. のネットワーク対外接続は、本学が外部に / から情報を発信 / 受信する問題で、1. の (2) と関連する構想である。インターネット等の活用により外部とのコミュニケーションを活発にして教育研究の発展に寄与するものである。現在本学の接続している九州地域研究ネットワーク (KARRN) がネットワーク接続サービス業務を本年度末に停止する事態を迎えており、新たに学術情報センターが構築・運営する学術情報ネットワーク (SINET) への移行を迫られてる。

3. の SCS 事業も、1. の (2) と関連するもので、メディア教育開発センターと国公立の大学、高専等が共同で推進する事業である。本学では SCS 事業運営委員会が統括し、センターはそれを補佐する立場にある。衛星通信を通じて大学、高専等が遠隔授業や会議を共催し、時間と空間のハンディを乗り越えようとするもので、本学は飯塚キャンパスと戸畑キャンパスを LAN で結んでの参加である。

¹情報科学センター長、情報工学部 知能情報工学科、okada@ai.kyutech.ac.jp

挨拶

4.の研究集会は、一般情報処理教育の向上を目指して旧制7大学+3工大(本学,名古屋,室蘭)²が幹事校となって、文部省との共催で毎年実施されている。第1回目は10年前に本学で開催され、幹事校一巡の後、来年再び本学が予定されている。1,000人程度の参加の見込まれる大規模で、かつ情報処理教育では歴史のある大会である。

以上に関し、MCC構想は関連の分野や部局と十分摺り合わせた後、適切な概算要求としての実現が望まれる。SINETへの移行は単なる接続先の変更に留まらず、SINET内での拠点校としての位置づけが名実共に望まれる。SCS事業はMCC構想と共に遠隔講義を充実するため回線等の基盤整備が望まれる。研究集会は、幹事校一巡後の記念すべき大会で、今後の一般情報処理教育のあり方を示唆する討論が期待されている。特に2.のSINETへの移行と4.の研究集会は、期限を定められたまったなしの作業である。

これらの課題へ向けて職員の皆さんと討論を重ねつつ、現在取り組みを行なっている。両学部を始め、関連部局の御理解、御支援を願うものである。

²平成9年9月9日東京大学で行なわれた第21回センター協議会において、新たに和歌山大学のシステム情報学センターが参加することになった。